

ア 学修時間・学修実態

アー 1. 学修時間

本学では、学生の学修への意欲や取組状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。

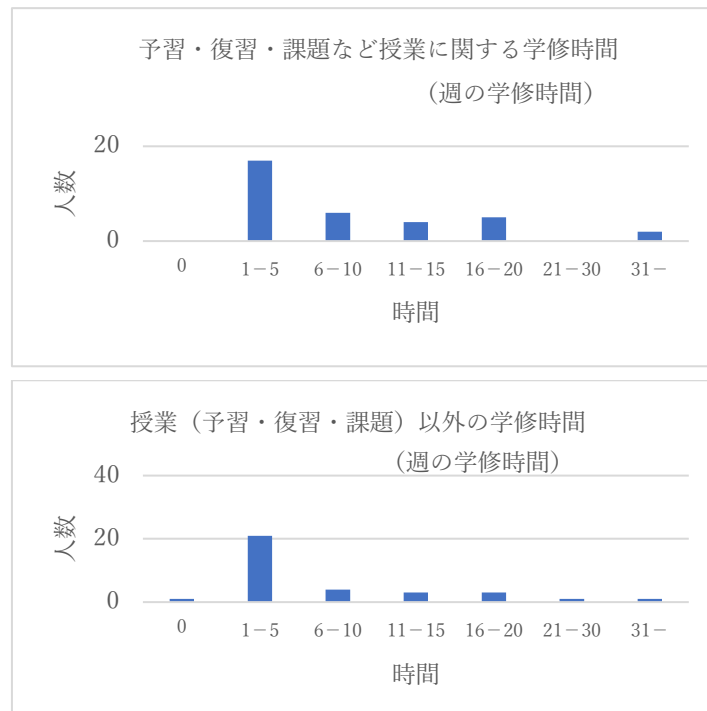
例年、5月に調査を実施していますが、今年度（令和2年度）は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い例年同様の調査が困難であったため、令和元年11月～12月に実施された文部科学省による全国学生調査（試行実施）に基づく本学学生の集計結果を公表いたします。

なお、対象は看護学部3年生（全国共通）で、本学の回答者数は34名（回答率32%）でした。

本学学生の週平均値は、予習・復習・課題など授業に関する学修が9.0時間、授業以外の学修が7.2時間と、全国の大学平均（授業に関する学修5.7時間、授業以外に関する学修4.9時間）を上回り、また、保健系学部の全国平均（規模により、授業に関する学修7.2～9.2時間、授業以外の学修5.2～7.1）も概ね上回った結果となりました。

本調査は、全国统一で学部3年生を対象とされており、本学では実習期間と重なっているため、通常講義時の学修時間と単純比較はできませんが、本結果も踏まえ、更なる学修支援に努めてまいります。

全国学生調査による本学学部3年生結果（n=34）



アー 2 留学率

令和元年度及び令和2年度前期：該当なし（0%）（平成30年度：該当なし（0%））

イ. 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは 12 の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価は どうでしたか」に対する集計結果（令和元年度調査；看護学部集計分）を公表（表 1）します。

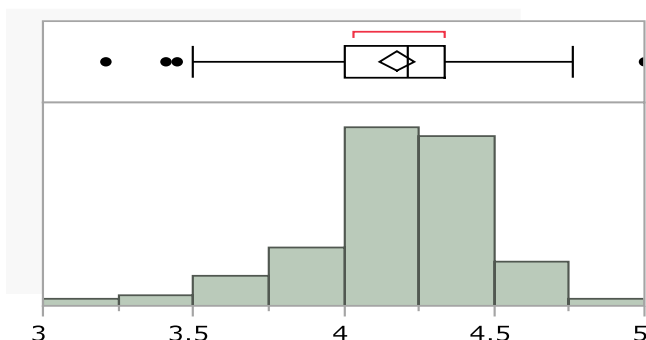
平成 30 年度の総合評価結果（平成 30 年度実績：平均値 4.34、中央値 4.40）と比較し、若干の低下となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、評価 4 は「よい」を意味しており、平均・中央値とも 4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

（表 1）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和元 年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	106
平均	4.18
標準偏差	0.29
中央値	4.22
範囲	5.00-3.21

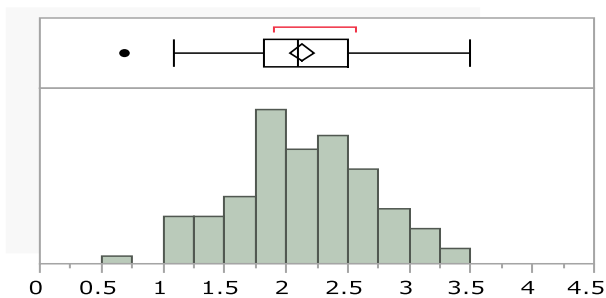
ウ 学修成果

ウー1 学内試験結果：GPA 分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する 1 単位当たりの GP の 平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の 5 段階評価（10 点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように 1 点単位での GPA を計算しています。（例：78 点の GP は $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

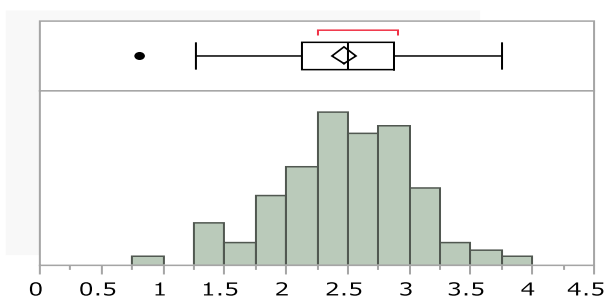
以下に、令和元年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目の GPA の分布状況を示します。平成 30 年度の結果と比較すると、3 年生に関しては中央値が上昇しましたが、他学年については、昨年度と同程度の結果となりました。（平成 30 年度中央値：学部 1 年 2.2、学部 2 年 2.5、学部 3 年 2.4 学部 4 年 2.7）また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるほど、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和元年度 1年生 GPA 分布 (1年次必修科目)



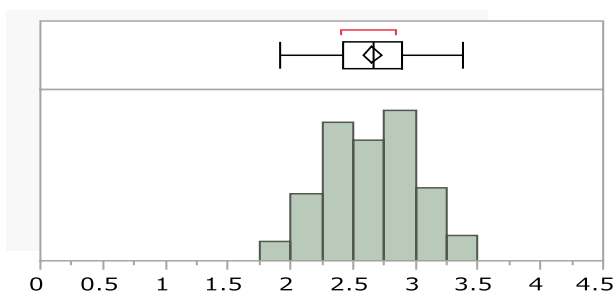
最大値	3.5
四分位点	2.5
中央値	2.1
四分位点	1.8
最小値	0.7

令和元年度 2年生 GPA 分布 (2年次必修科目)



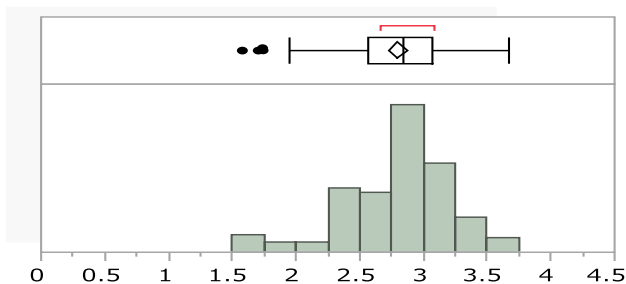
最大値	3.8
四分位点	2.9
中央値	2.5
四分位点	2.1
最小値	0.8

令和元年度 3年生 GPA 分布 (3年前期必修科目)



最大値	3.4
四分位点	2.9
中央値	2.7
四分位点	2.4
最小値	1.9

令和元年度 4年生 GPA 分布 (3年後期～4年次科目 必修科目)



最大値	3.7
四分位点	3.1
中央値	2.8
四分位点	2.6
最小値	1.6

ウー2 単位修得状況

令和元年度における各学年の必修科目、選択・自由科目の平均取得単位数は以下の表のとおりです。

本学では、教育課程を体系的に学ぶことを目的に、必修科目については、全科目について履修すべき年次を指定しているため、原則として学生間に差は生じません。

また、選択科目については、配当年次の関係上1年次での履修が多く、2年次以降の選択・自由科目については、コース履修による自由科目が多くを占めています。

なお、コース履修者は必修科目以外に自由科目として、保健師コースは3・4年次に16単位、国際看護コースは3・4年次に3単位以上、グローバルスタディーズコースは1～3年次に5単位以上を履修します。

<各学年での平均取得単位数>

学年／履修区分	必修科目	選択・自由科目 (最小値～最大値)	合計
看護学科1年	31	12 (10～14)	43
看護学科2年	40	1 (0～5)	41
看護学科3年	20 (※2)	1 (0～5)	21
看護学科4年	24 (※2)	2 (0～13)	26

※1. 上記は進級者の年間取得単位の平均値

※2. 3～4年次に渡る科目(実習・研究)は全学生4年次に計上

※3. 小数点第1位を四捨五入

ウー3 到達度自己評価

看護学部 4 年生に対し、自身の 4 年間の学びを振り返り、到達目標への達成度を自己評価するアンケートを実施しています。

平成 27 年度～令和元年度結果についてはグラフに示すとおりです。

令和元年度アンケート結果の特徴として、到達目標 11 項目中 10 項目において「非常に当てはまる」「かなり当てはまる」と回答した学生が 8 割以上であり（1 項目のみ 77%）、特に、3 項目目「人間の心理・行動への関心」や、4 項目目「ロイ適応看護モデルの理解」は他項目と比較して最高評価である「非常に当てはまる」と回答した割合が高い結果となりました。

また、自由記載においては、「カトリックの愛の精神に基づく看護を学ぶことができた」といった内容が複数見受けられ、学生に対し、建学の精神に基づく教育が根付いていると考えます。

なお、前年度（平成 30 年度）より、調査方法をアンケート用紙配布からウェブ方式に変更したことや、令和元年度は新型コロナウイルス感染症に伴い自宅回答となったことから、例年比で回答率が低い傾向にありました。

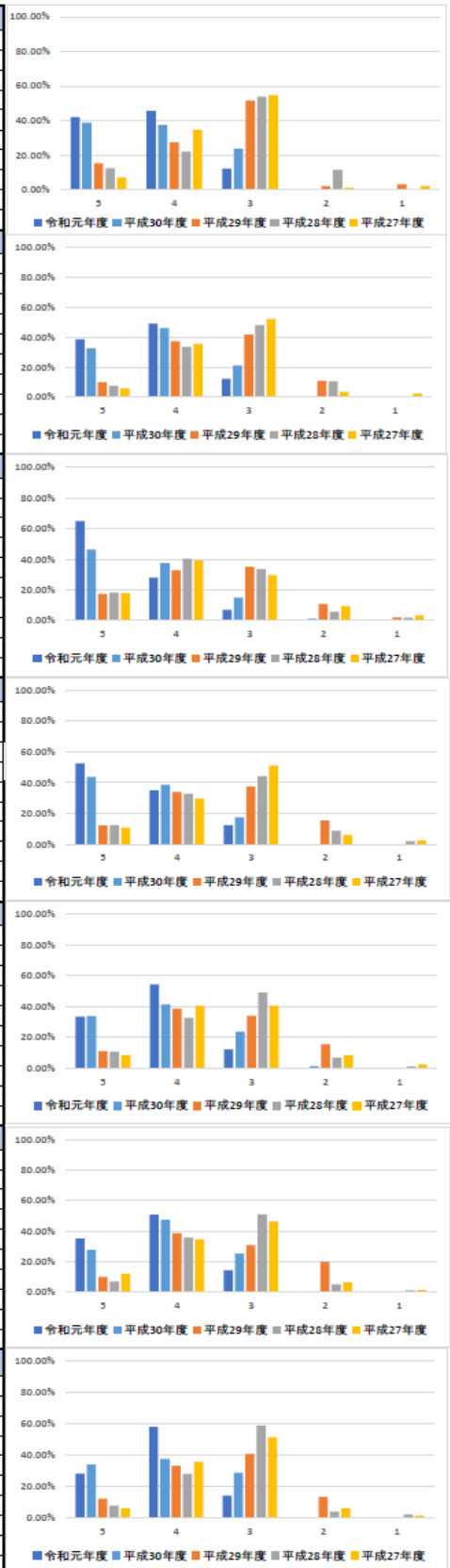
本結果で示された到達目標ごとの到達度を踏まえ、更なる教育・学生支援の向上に努めてまいります。

卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果

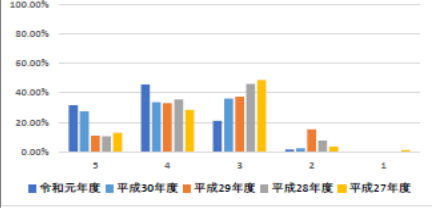
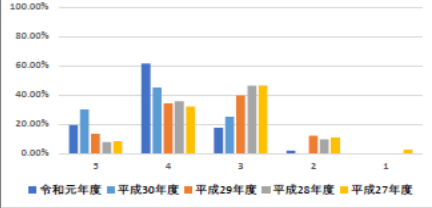
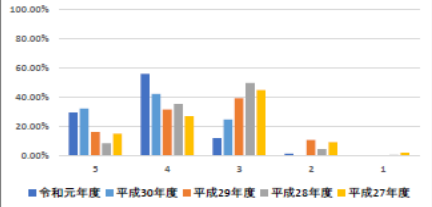
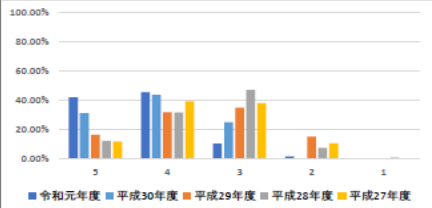
(回答率：令和元年度54.8%、平成30年度 70.2%、平成29年度 83.5%、平成28年度 92.0%、平成27年度 70.6%)

5：非常に当てはまる 4：かなり当てはまる 3：大体当てはまる
2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

到達目標	選択数						未記入	合計
	5	4	3	2	1			
1 「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアの基本を身につけることができるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	24	26	7	0	0	0	57(件)
	卒業生	42.11%	45.61%	12.28%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	31	30	19	0	0	0	80(件)
	卒業生	38.75%	37.50%	23.75%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	14	25	47	2	3	0	91(件)
	卒業生	15.38%	27.47%	51.65%	2.20%	3.30%	0.00%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	13	23	56	12	0	0	104(件)
卒業生	12.50%	22.12%	53.85%	11.54%	0.00%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	6	29	46	1	2	0	84(件)	
卒業生	7.14%	34.52%	54.76%	1.19%	2.38%	0.00%	100.00%	
2 医療技術の進歩に伴う人間の生存と派生する諸問題を学び、人間の尊厳を尊重した社会の在り方を考え、倫理的な本質を探究することができるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	22	28	7	0	0	0	57(件)
	卒業生	38.60%	49.12%	12.28%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	26	37	17	0	0	0	80(件)
	卒業生	32.50%	46.25%	21.25%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	9	34	38	10	0	0	91(件)
	卒業生	9.89%	37.36%	41.76%	10.99%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	8	35	50	11	0	0	104(件)
卒業生	7.69%	33.65%	48.08%	10.58%	0.00%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	5	30	44	3	2	0	84(件)	
卒業生	5.95%	35.71%	52.38%	3.57%	2.38%	0.00%	100.00%	
3 他者との相互作用、人間関係の諸側面について理解し、人間の心理や行動に感心を持つことができるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	37	16	4	0	0	0	57(件)
	卒業生	64.91%	28.07%	7.02%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	37	30	12	1	0	0	80(件)
	卒業生	46.25%	37.50%	15.00%	1.25%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	16	30	32	10	2	1	91(件)
	卒業生	17.58%	32.97%	35.16%	10.99%	2.20%	1.10%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	19	42	35	6	2	0	104(件)
卒業生	18.27%	40.38%	33.65%	5.77%	1.92%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	15	33	25	8	3	0	84(件)	
卒業生	17.86%	39.29%	29.76%	9.52%	3.57%	0.00%	100.00%	
4 ケアリングを基本概念とする理論であるロイ適応看護モデルを理解することができるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	30	20	7	0	0	0	57(件)
	卒業生	52.63%	35.09%	12.28%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	35	31	14	0	0	0	80(件)
	卒業生	43.75%	38.75%	17.50%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	31	34	14	0	1	91(件)
	卒業生	12.09%	34.07%	37.36%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	13	34	46	9	2	0	104(件)
卒業生	12.50%	32.69%	44.23%	8.65%	1.92%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	9	25	43	5	2	0	84(件)	
卒業生	10.71%	29.76%	51.19%	5.95%	2.38%	0.00%	100.00%	
5 人間の生命現象、疾病の原因や成り立ちを学び、健康の維持、増進に向けての医療の基礎を習得できるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	19	31	7	0	0	0	57(件)
	卒業生	33.33%	54.39%	12.28%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	27	33	19	1	0	0	80(件)
	卒業生	33.75%	41.25%	23.75%	1.25%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	10	35	31	14	0	1	91(件)
	卒業生	10.99%	38.46%	34.07%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	11	34	51	7	1	0	104(件)
卒業生	10.58%	32.69%	49.04%	6.73%	0.96%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	7	34	34	7	2	0	84(件)	
卒業生	8.33%	40.48%	40.48%	8.33%	2.38%	0.00%	100.00%	
6 看護の概念、本質の理解を基盤に、小児期から老年期に至る発達各期の人間の健康の維持、回復、増進を阻害する要因を理解し、看護介入のための知識、技術を習得できるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	20	29	8	0	0	0	57(件)
	卒業生	35.09%	50.88%	14.04%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	22	38	20	0	0	0	80(件)
	卒業生	27.50%	47.50%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	9	35	28	18	0	1	91(件)
	卒業生	9.89%	38.46%	30.77%	19.78%	0.00%	1.10%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	7	37	53	5	1	1	104(件)
卒業生	6.73%	35.58%	50.96%	4.81%	0.96%	0.96%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	10	29	39	5	1	0	84(件)	
卒業生	11.90%	34.52%	46.43%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%	
7 保健医療福祉のそれぞれを必要とする段階において、看護学の体系的学びを実践学習のなかで履修することができるようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	16	33	8	0	0	0	57(件)
	卒業生	28.07%	57.89%	14.04%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成30年度(2019.3月)卒業生	27	30	23	0	0	0	80(件)
	卒業生	33.75%	37.50%	28.75%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	30	37	12	0	1	91(件)
	卒業生	12.09%	32.97%	40.66%	13.19%	0.00%	1.10%	100.00%
	平成28年度(2017.3月)卒業生	8	29	61	4	2	0	104(件)
卒業生	7.69%	27.88%	58.65%	3.85%	1.92%	0.00%	100.00%	
平成27年度(2016.3月)卒業生	5	30	43	5	1	0	84(件)	
卒業生	5.95%	35.71%	51.19%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%	



No.	内容	選択級							
		5	4	3	2	1	未記入	合計	
8	学習体験から課題を発見し、根拠ある看護実践について継続的に探求し学習していく能力を身につけることができたようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	24	26	6	1	0	0	57(件)
		卒業生	42.11%	45.61%	10.53%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成30年度(2019.3月)卒業生	25	35	20	0	0	0	80(件)
		卒業生	31.25%	43.75%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	32	14	0	1	91(件)
		卒業生	16.48%	31.87%	35.16%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	33	49	8	1	0	104(件)
卒業生	12.50%	31.73%	47.12%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%		
平成27年度(2016.3月)卒業生	10	33	32	9	0	0	84(件)		
卒業生	11.90%	39.29%	38.10%	10.71%	0.00%	0.00%	100.00%		
9	情報処理、危機管理、他の専門職種との協働を理解し、看護職の責務とともに医療安全管理の能力を身につけることができたようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	17	32	7	1	0	0	57(件)
		卒業生	29.82%	56.14%	12.28%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成30年度(2019.3月)卒業生	26	34	20	0	0	0	80(件)
		卒業生	32.50%	42.50%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	36	10	0	1	91(件)
		卒業生	16.48%	31.87%	39.56%	10.99%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	9	37	52	5	1	0	104(件)
卒業生	8.65%	35.58%	50.00%	4.81%	0.96%	0.00%	100.00%		
平成27年度(2016.3月)卒業生	13	23	38	8	2	0	84(件)		
卒業生	15.48%	27.38%	45.24%	9.52%	2.38%	0.00%	100.00%		
10	保健医療福祉制度、医療資源、医療経済について学び、批判的に吟味し、将来の課題と看護職の役割を見いだす能力を身につけることができたようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	11	35	10	1	0	0	57(件)
		卒業生	19.30%	61.40%	17.54%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成30年度(2019.3月)卒業生	24	36	20	0	0	0	80(件)
		卒業生	30.00%	45.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	12	31	36	11	0	1	91(件)
		卒業生	13.19%	34.07%	39.56%	12.09%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	37	48	10	0	1	104(件)
卒業生	7.69%	35.58%	46.15%	9.62%	0.00%	0.96%	100.00%		
平成27年度(2016.3月)卒業生	7	27	39	9	2	0	84(件)		
卒業生	8.33%	32.14%	46.43%	10.71%	2.38%	0.00%	100.00%		
11	異文化理解の姿勢と学びを深め、国際看護、国際保健医療福祉において貢献する国際的通用性の重要性を理解することができたようになった。	令和元年度(2020.3月)卒業生	18	26	12	1	0	0	57(件)
		卒業生	31.58%	45.61%	21.05%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成30年度(2019.3月)卒業生	22	27	29	2	0	0	80(件)
		卒業生	27.50%	33.75%	36.25%	2.50%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	10	30	34	14	0	3	91(件)
		卒業生	10.99%	32.97%	37.36%	15.38%	0.00%	3.30%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	11	37	48	8	0	0	104(件)
卒業生	10.58%	35.58%	46.15%	7.69%	0.00%	0.00%	100.00%		
平成27年度(2016.3月)卒業生	11	24	41	3	1	4	84(件)		
卒業生	13.10%	28.57%	48.81%	3.57%	1.19%	4.76%	100.00%		



ウー4 資格取得等実績

本学看護学部は、看護師及び保健師（選択コース）の国家試験を受験します。

令和元年度卒業生の国家試験の結果は以下のとおりです。（助産師は助産学専攻として受験）

平成 30 年度卒業生結果と比較すると、助産師に関しては昨年度に引き続き 100%の合格を達成しました。また昨年度不合格者を出した保健師（平成 30 年度卒業生 88.9%）については、合格率 100%を達成することができました。看護師（平成 30 年度卒業生 93.9%）に関しては、前年度を下回る結果となりました。

看護師に関しては、引き続き学生支援センター（学修支援部門）等を中心とした学生支援を行い、合格率向上に努めていきます。

職 種	全国合格率(%)	本 学				
	(新卒のみ/全体)	出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率(%)
看護師	94.7/89.2	104	104	95	9	91.3
保健師	96.3/91.5	18	18	18	0	100.0
助産師	99.5/99.4	15	15	15	0	100.0

ウー5 学位（看護学）取得状況

令和元年度学位授与者：104 名

（平成 30 年度学位授与者：114 名）